

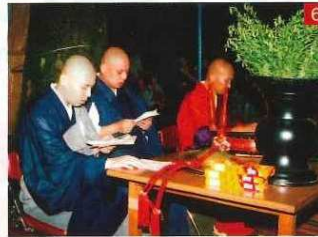
みたままつり

(越前市)



これが盆灯籠。7月に入ると、武生中心部の八百屋などの店頭に並ぶ。他地域ではあまり見られない形と大きさは、初盆なら白色を使う

1. 前日に組まれた「お焚き上げ場」 2. 午前中は、近くの幼稚園児らが七夕飾りのお焚き上げにやってくる 3. 夕刻から地域の子どもたちにもお手伝いしてもらいろうそくに火を灯す 4. 会場では人形供養や写真供養などを受け付けてくれるほか、そばや茶席などの屋台も 5. お焚き上げ場を右回りに3回廻る。インドに伝わる尊い人への供養法が基になっている 6. 交代で切れ目なく読経を行う 7. 一週間後、送り灯籠を川へ流していたかつての風習に倣い、お焚き上げの灰を少量川へ流す



地域の伝統的な盆行事を次代につなげる

越前市中心部、深草にある曹洞宗のお寺「金剛院」。ここでは毎年7月15日に「みたままつり」が行われます。夕刻には境内に約6000本ものろうそくが灯され、幻想的な雰囲気。地元の人を中心に見物する人も多く訪れ、武生の風物詩のひとつになっています。

うと、25年前、ご住職が寺での「お焚き上げ」を地域の人に提案。「ぜひやろう」と協力者が集まり「潤い・たけふ・大すき会」を結成し、市の協力も得て、地域の行事として新たに始められました。

「お寺で行っておりますが、もともとは地域の伝統行事です」というのは金剛院ご住職の諏訪大明さん。このあたりでは昔から、新盆にあたる7月の13〜15日にかけて、各家庭でご先祖を迎える「盆灯籠」を飾る風習がありました。15日に近くの川に灯籠を流し、先祖を送っていました。が、近年の河川環境の変化で難しくなっており、このままでは盆灯籠そのものが廃れてしま

町のみならず、ご住職、中心メンバーの高齢化という課題もあります。が、「伝統を若い人につなげる」ことが大事。難しいことですが、引き継ぐためにもがんばって続けたいですね。「亡き人を想い、心を養う」盆行事は、地域の人に支えられています。



金剛院住職の諏訪大明さん。住職になった25年前からお寺を開放し、毎週水曜夜の「心経の会」や月1回の座禅会の他、「潤い・たけふ・大すき会」主催で寄席を行うなど様々な活動している。

みたままつり

7/15(金)

17:00 受付

19:00 万灯点灯式

場所 金剛院

越前市深草2-2-37

☎0778-22-7188